

# 蜜蜂と遠雷シネマ&トーク

## とよはしまちなかスロータウン映画祭で特別イベント

「第18回とよはしまちなかスロータウン映画祭」(同実行委員会主催)の特別イベント「蜜蜂と遠雷シネマ&トーク 俳優平田満、故郷の後輩石川慶監督作品を語る」が22日、豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットで開催された。同市出身の映画監督・石川慶さんの最新作「蜜蜂と遠雷」を特別上映し、同作に出演している同市出身の俳優で、石川監督の時習館高校の先輩でもある平田満さんが監督について語った。

(大林恭子)

## 作品に出演の平田満さん石川慶監督を語る

平田さんは「折り目で直撃(しんし) 目で正しく丁寧で、理知的な人柄。おだや」

かで直撃(しんし) 編デビュー作「愚行な人だと感じる」と 録」と今作の2作を石川監督を紹介。長ともに作り上げた経

験を振り返り「決められた通りにどんどん

ん撮るといふより、ちゃんと話して、一緒に作っていく感じ。自分のアイデアだけで突っ走るのではなく、きちんと説明してくれる。自分が思ったことを最善の方法で撮っていきたいという気持ち伝わってくる。できたものは凡庸ではな

いが、地道に、まっとうに映画づくりをしている」と話した。石川監督は1977年生まれ。時習館高校、東北大学物理学科卒業後ポロランド国立映画大学に留学、2017年に「愚行録」でベネチア国際映画祭出品ほか多くの新人賞を獲得した。

賞し、高い評価を得ている。とよはしまちなかスロータウン映画祭では、一昨年、昨年と石川監督を招き、作品の特別上映やトークイベントを行うなど注目してきた。石川監督は冒頭にビデオで「今回のイベントには新作の撮影で参加できず残念。『蜜蜂と遠雷』は難しい映画だったが、評価していただきありがとうございます」とメッセージを寄せた。



石川慶監督について語る平田満さん(右)(穂の国とよはし芸術劇場プラットで)